



新ターミナルビル

【工事及び施設概要】

管理者：沖縄県
事業期間：平成11年～平成14年度
事業費：約43億円
滑走路長：1,500m×45m
ターミナルビル：点示ブロック、エレベータ、車いす対応等バリアフリー構造
約990m²（地上2階） 駐車場57台
運用時間：08：00～18：00（10時間）

【運航予定】

区 間	往復／日	所要時間	就航機材
宮古－多良間	2	20分	DHC-8（39人乗）
石垣－多良間	1	25分	BN-2B（9人乗）



現就航BN-2B型機（9人乗）



新就航DHC-8型機（39人乗）



ゆったり快適な機内



10月10日開港

10月10日、県が離島振興の一環として建設を進めていた「新多良間空港」が開港し、村民が永年待ち望んでいた39人乗りDHC-8型機が宮古－多良間に就航します。これにより村民生活の利便性の向上と地域振興が図られ、深刻化する過疎化の歯止めになることが期待されています。



▼離島苦の解消に向けて

現在の多良間空港は、昭和四十六年三月、緊急着陸飛行場（主に急患輸送用）として建設されました。昭和四十七年の本土復帰に伴い適用された航空法に基づき滑走路長八〇〇メートルに拡張整備され、以来、十九人乗りDHC-6型機が平良と石垣に就航していました。

しかし年々増大する航空需要に対し供給が十分ではなく、また、少々の悪天候でも欠航するため、村民生活に不便を強いるとともに地域の振興にも影響を与えていることから、機材の大型化とそれに対応した滑走路延長の要望が高まりました。さらに平成十三年度には老朽化のためDHC-6型機が退役し、九人乗りBN-2B型機に代わったことから一段と状況が厳しくなりました。このようなことから、県では安全で快適な運航の確保と機材の大型化



八月踊り－豊年祭

▼多良間村の発展に寄与する新空港

BN-2B型機からDHC-8型機に代わることで、輸送能力増大、就航率向上、快適性向上が図られます。

■輸送能力増大

乗客で約四倍以上（九人→三九人）、貨物で約六倍以上（一三〇キログラム→八六〇キログラム）輸送能力が増大します。

■就航率向上

DHC-8型機は高く飛べるため、航路上の天候に左右されにくく、離着陸の際、機材の大型化により横風への対応能力も増すことから就航率が向上します。

■快適性の向上

DHC-8型機はトイレ、空調装置が備わっており、座席も広く快適な旅行ができるようになります。

また、赤瓦の新ターミナルビルは、現ターミナルビルより約三・七倍大きく、点字ブロックやエレベータ、車いす対応のトイレ

に対応するため、平成十一年度より現在の多良間空港から西の地点に滑走路一、五〇〇メートルの新たな空港を整備しました。

▼ゆがぶアイランド 多良間村

多良間村は、宮古島と石垣島のほぼ中間に位置し、多良間島と水納島の二島から成ります。人口約一、四〇〇人。主産業は農業。基幹作物はサトウキビで、近年は肉用牛の飼養も盛んです。

島には、白い砂浜や青い海、濃緑色のフクギ並木など豊かな自然が残っています。伝統芸能も盛んで、毎年旧の八月八日から三日間に渡って繰り広げられる「八月踊り－豊年祭」（国の重要無形民俗文化財指定）には、観光客や島の出身者など多くの人が訪れます。



建設中の公営宿泊施設「夢パティオたらま」（仮称）

設置などバリアフリー構造となっています。

新空港建設による効果は、多良間村の経済社会の発展に大きく寄与することが期待されています。航空券が入手しやすくなります。欠航が少なくなり計画的な旅行が可能になります。

。団体旅行客、各種会議、スポーツ大会等の誘致が可能になり交流人口の増加が見込まれます。村では団体客受入れに向けて公営宿泊施設「夢パティオたらま（仮称）」（収容人員約五〇名）の建設を進めています。

。野菜、果樹等付加価値の高いフライング産業の振興、島の潜在的魅力を生かしたエコツアー等の観光振興が検討されています。農林水産業、観光・観光リゾート産業等の振興により地域が活性化し、定住人口の増大に繋がることとが期待されています。

●お問い合わせ 県空港課

TEL 098-866-2400
FAX 098-869-6279